

第2回 京都市西陣を中心とした地域活性化ビジョン検討委員会

《日時》

平成30年3月22日（木）午後3時～午後5時

《場所》

北野天満宮文道会館

《出席者》

別紙一覧表参照

《議事録》

1. 開 会

— 省略 —

2. 議 題

(1) 活動事例の紹介

◆高田委員長

議題(1)は「活動事例の紹介」となっている。この委員会は西陣を中心とした地域の活性化がテーマであり、分野が広く、多面的な領域の専門家にお集まりいただいている。その中で、個別の委員が専門とされている内容を深く知っておくことが重要ではないかと考えており、それが相互の刺激となって、新しいアイデアが出てくることも期待されるので、数名の委員より活動を紹介していただくことになった。

本日は、タナカ委員と上林委員から活動事例の紹介をよろしくお願いしたい。

【事例紹介】— 省略 —

◆高田委員長

御報告に関して御質問やコメントがあれば伺いたい。(質問等なし)

貴重なお話を頂き、勉強させていただいた。後から関連する話が出てくる場合は、改めて御質問や御意見を頂くこととして、次の議題に進みたい。

(2) 西陣を中心とした地域の将来像と活性化の方向性

◆高田委員長

議題(2)は「西陣を中心とした地域の将来像と活性化の方向性」である。前回の委員会においては、皆様から幅広い御意見を頂いたまま、その御意見をどのようにまとめるかという整理ができないうちに終了せざるを得なかった。本日は、もう一度皆様に前回の議論を確認していただき、どのように取りまとめたらいかが議論していただきたい。事務局から資料説明の後、

皆様から自由に意見を出していただき、この検討委員会で扱うべき議論の対象、課題、あるいは地域性の理解等について、共通のマップ的なものを確認したいと思う。

まずは、事務局から資料の説明をしていただく。

【資料説明】 — 省略 —

◆高田委員長

ベースとなっているのは、前回皆様から頂いた意見を整理し、全体の相互関係を考えたものなので、本日はこれを叩き台として、新たに出てきた情報も含めて、ビジョンを作成するに当たって我々が考えるべきフィールドをマップにしていければと思う。これについて、御意見、御質問を出していただきたい。

一方で、この委員会と並行して、学区代表の方に集まっていたいただいた意見交換会が行われており、非常に良い御意見をたくさん頂いているようである。「子どもを育てやすいまち」について、様々な御意見を頂き、重要な御指摘だと感じている。これについては、このビジョンにどのように取り込めばよいかということもお考えいただきながら、御意見を頂きたいと思う。今回は指名しないので、自由に御発言いただきたい。

◆鳴橋委員

資料 3「将来像及び活性化の方向性のイメージ」の中で一番良い将来像だと思うのは「京町家等の和の建物・空間等での日々の暮らしの中に和の文化が色濃くあり、地域住民が生活に根付いた文化を体現し、世代を超えて継承しているまち」である。

私が今年、上京区役所のまちづくり活動支援事業で行っている活動もこの中に入ると思うが、上京区では、私たちだけではなく、多くの団体が活動されているので、西陣周辺での活動イベントを紹介したい。

かなり多くのイベントがあり、また北野天満宮は宗教的なものもあるが、例えば、「京の七夕」は周りの地域を巻き込んで地域振興に尽くしておられるイメージがある。

また「都ライト」という学生のイベントは、町家を建物内部からライトアップして、町家の美しさをアピールするもので、全市内の大学生の有志が集まって行っている。上七軒から大黒町までを会場としているが、ここでも北野天満宮が協力されていると聞いている。

大將軍商店街では「妖怪ストリート」や「モノノケ市」等も開催されている。

千本商店街は朱雀大路のまちマップを配布している。千本通は昔の朱雀大路に当たるところで、この方々は歴史のあるところに自分たちのまちがあることを誇りに思われている。前回、千本商店街が寂れて残念だという意見が出されたが、千本商店街の中の若い人たちが再興させようといろいろな活動をしている。「千本 100 円商店街」やまち歩きも行われている。先ほどタナカ委員が言われた上京ちず部の活動も上京区まちづくり活動支援事業になっているが、千本周辺を歩いて Web 上の地図に情報を書き込み、誰でもそれを持って歩けるようにしようという活動である。明日、NHK で放送されるので御覧いただきたい。

大宮通では千両ヶ辻のイベントをされており、また、西陣中央小学校の校区では西陣の朝市

マルシェが行われている。

上京全体で、タナカ委員が活動されているような上京オープンウィークもある。これも上京区まちづくり活動支援事業発のイベントである。

もう1つ「能舞台フェスタ」を5月4日に開催するが、これは宗教的なものではなく、西陣の朝市マルシェと一緒に開催するもので、能舞台を学生や地域の人たちの発表の場にしてもらうイベントである。

我々が行っている「上京 KOTO-継(ことづく)プロジェクト」は、年配の方が持っている習わしや伝統文化を子どもたちにつないでいこうというもので、そういう活動も行っている。

ただ、これだけ多くのイベントがあるのに、それぞれの活動がバラバラで、まとまって行われていない。したがって、これを1つにまとめることができれば、上京全体、西陣全体が動くようなイベントができるのではないかと思う。上京オープンウィークの活動はまさにそのような活動だが、全体を動かすことが今のところはまだできていないので、京都市の力でバックアップしていただくとさらに大きなイベントになるのではないかと思う。そういうところで、新しい人やアイデアと事業者をつなげるような化学変化が起こることも期待される。活動内容としては伝統工芸や町家見学、文化発信、また、若者が参加する、着物を着て来場してもらう等も考えられる。伝統工芸では、西陣織の工房で体験と販売を行い、将来の担い手を育てるという意味で子どもを中心としたワークショップを行うとよいのではないかと思う。

もちろん、そういう動きは今までもあったが、なかなか大きく育たないジレンマがあるので、町家を含む店舗等について、住みたい人や借りたい事業者たちも集めて町家巡りをするとよいと思う。そういうことも言われていながら、かなり部分的なところに低迷している。寺社の活用という発言もあったと思うが、いろいろな寺社を伝統芸能の上演の場にするのも面白いと思う。同時に、シェアオフィスの開放を「385PLACE」等でしていただいて、若者のイベントをつくる等もしていただくとよいと思う。また、商店街のイベントを同時開催して、学生たちに出店してもらう等も、よくある手ではあるが、今までそういうことがあまりされていないと思うので、一度に全部はできなくても、いくつかだけでも実施できると大きな動きになるのではないかと思っている。

それから、ジョブカフェのようなものができるとうよいと思う。「知るカフェ」は同志社大学や立命館大学にあるが、企業がカフェを運営して、学生は無料で利用でき、賛同する企業と話ができるというカフェだが、これの職人版ができるとうよいと思う。職人体験の場はあるが、その場では職人に対して「生活していけるのか」等の話は聞けない。私は組紐職人だが、体験してもらう時はものを作ってもらうことを一番に考えるので、「これで儲かるか」というような話を聞かれても返事ができない。そういうことをしたいと思う若い人たちがいても、今は相談する場がないので、若い人が来た時に相談できるカフェがあるとよいと思う。

◆高田委員長

活動のつながりがもう少し作れないかという話は、前回も数名の方から御意見を頂いたが、資料2の下に「つながりによる創造」とあるので、これをどのような戦略で進めればよいか、もう少し議論してはどうかという御提案だと理解した。つながりが大事だという御指摘につい

ては、人のつながり、活動のつながり、ものづくりの相互のつながり等、いろいろな意味で議論を頂いたが、どのような戦略でつながりを強めるか、ポジティブなサーキットを作っていくか等、これから考えていかなければならないと思う。関連する御意見があれば御発言いただきたい。

◆神原委員

先程の意見に関連して、全体的に単発の企画が多いと思う。「都ライト」も上七軒の町家はライトアップしているけれども、天満宮のライトアップとは一週間程のずれがあり、東門は閉まっているという状態がある。「天満宮」と「都ライト」が一緒に企画することにより相乗効果で多くの人に見てもらうことを考えた方がよいのではないかと提案したこともある。その他の様々な行事も単発が多いので、重ねられるものは重ねていくと、もっと大きな渦ができるのではないかと思う。

例えば、天満宮には刀剣が100振り程あり、三年程前より各寺社に声をかけて朱印と刀剣巡りを企画し宝物殿を公開したところ、アニメの「刀剣乱舞」等の流行もあり、年間1,000人程しか来場がなかった宝物殿に20代~40代の若者が10万人くらい押し寄せ、足を運びにくい場所にある寺社などは若い女性がお参りに行くことも少なかったが、刀を目的に足を運ぶようになる等、刀があれば若い女性が見に行くようになった。刀剣を展示している寺社の地域の飲食店等からも「また開催してほしい」という話もよく聞く。このように寺社等の横のつながりをつくり、連携して地域全体を盛り上げていくことが必要であると考えている。

◆冷泉委員

私も先日「刀剣乱舞」を拝見し、刀剣を観に来られる若い人たちの数がとても多く、本当に驚いた。そのように若い人たちに来ていただけるのはありがたいことなので、是非続けていただきたいと思う。

その一方で、この地域の1つの財産は「年寄り」だと考えている。この地域には年寄りが多いので、もちろん若い人には来てほしいが、今まで負のイメージが強かった年寄りに盛り上げてもらう方法はないかと考えていた。そして考えついたのが、「老人のまちの千本通」である。「老人のまち」というと負のイメージかもしれないが、実は老人とは私たちくらいの年代を指す。今一番多いのは団塊の世代で、多くの人たちが元気で面白いことを探している。そして、それに続く世代もたくさんいる。その人たちが出歩けるまちをつくった方がよいのではないか。木屋町や河原町に行くと若い人たちがたくさんいるが、年寄りは全く歩いていないし、どこにいるのかと思う。そういう人たちを千本通に溢れさせることができないか。

1つの考えとして、「年寄り」と言うと民謡や演歌というイメージがあるが、実はそうではなくて、私たちはグループサウンズやビートルズ、あるいはフォークソングの世代であり、だからこそ、今、テレビではそういう番組をよく放送している。そういう音楽のライブハウスを千本通辺りに誘致して、そこに元気な年寄りが溢れて、踊っているようなイメージができないかと思う。

全国で年寄りのまちをPRしているところというところ、東京の方で介護用品等を売っているま

ちや、九州の方で昭和のまち等があるが、私が思うのはそういうイメージではない。私の友人は「私たちの着るものがない」とよく言っている。まちを歩くと、若い人用のブランド店はたくさんあるが、年寄りのためのブランド店がない。そういう人たちの好むものを集めることによって、京都に来る客も、若い人たちは河原町や木屋町で遊ぶし、高齢の方はこちらに来てもらえるのではないかと。そうすると、そういうまちは日本中にないので、「千本というところに遊びに行こう」という形で盛り上がるのではないかと思っている。それがひいては西陣の地域活性化になる。もちろん、それにつれて若い人たちが来てくれるとさらによい。いずれにしても少し視点を変えることが必要だと思う。ここに溢れているのは年寄りだということ、年寄りに上手く遊び回ってもらえるようなまちにならないかという思いがある。

◆高田委員長

広がりのある提案を頂いた。アクティブシニア、クリエイティブシニアというか、団塊の世代を中心にそれ以上の層も含めて、千本通を元気な高齢者が活性化するまちにしてはどうかという御意見である。関連する提案やアイデアがあれば御発言いただきたい。

◆上林委員

社会福祉協議会の活動で高齢者の居場所づくりをしている。月1~2回の頻度で行っており、最初は居場所をつくって引き籠りのシニアを外に出して元気になってもらおうという趣旨で活動を始めたが、1年間活動して「何かが違う」と感じた。これは単に時間を浪費しているだけではないかと反省し、「平成30年度からは汗をかく(稼ぐ)集団に生まれ変わってはどうか」という提案をしようと思っている。

例えば、地域通貨の発行もできるような仕組みを作りながら、電球を取り替えられない高齢者はサービスを受ける側に回ってもらい、元気なシニアは報酬として地域通貨をもらって、家の修繕仕事を引き受けたり空き家の戸の開け閉めに日参する等、少し報酬が入るような活動をする。そのお金を持って、冷泉委員が提案されたようなところに遊びに行くもよし、いろいろとつながっていく。お金がほしいから活動するのではなく、生きがいを感じるためにいくらかの地域通貨が入って、その地域通貨がまた地域で使えるという仕組みができると良いと夢見ている。

◆高田委員長

経済活動をどう連携させるかというアイデアである。段々と話が広がっていくとよいと思うが、いかがか。

◆福岡委員

御指摘のとおり、西陣は元々産業の地で、西陣織をはじめいろいろな産業があったが、それが段々と衰退してきている。一方で、バリバリ仕事をしている年配の方はとても元気だが、なかなか仕事をする場がない。

それで今私がしようとしているのは、ものづくり全盛期の頃から丹後の方に仕事を出してい

た結果、西陣自体のものづくりが段々と減っているのです、今こそものづくりをするという原点に西陣を戻そうということである。若い人で「織物の勉強をしたい」と地方から来る人は少ないので、そういう若い人たちを年配の方々が指導していただくとよいと思う。それで、私の勝手な考えだが、例えば、京都市に指導料を一部補助していただく等ができれば、年配の方も小遣いができ、それに対して遊びの場があると、若い人から年寄りまで皆さんが楽しめる地域になるのではないかと思う。

◆伊豆藏委員

私は西陣織に携わっており、長年、先輩や親の話を聞いてきたが、やはり西陣織が発展した背景には産業になって儲かったという事実がある。九州から集団就職で来て西陣織を覚え、サラリーマンが稼ぐ以上に稼いだという現実がある。やはり、賑わいが出るためには、産業化が必要である。イベントだけではその場で終わって上手くいかないのではないかと思うので、例えば、天神さんと刀剣のコラボレーションも、観光ビジネス、観光産業として定着するなど、そういったことを考える必要があるのではないか。

西陣織については、平成 27 年の生産概況を見ると、帯を主体とする小幅織機が 2,100 台ほどになっている。これは丹後と京都を合わせた数字だが、6 割以上は丹後である。今までの推移から考えると、2030 年には 500 台を切るだろうと推測される。このような実態を考えると、この部分を何とかしなければならぬのは事実だが、それ以上に新しい産業を上京区、西陣にいかにつけてくるかということを実際に考えなければならぬと思う。

我々の先輩たちは帯を織ってきたが、それは帯を織ることが一番産業になったし、一番儲かったからである。それが着物の中の帯という形になって、今では着物店に売ってもらわなければ、我々だけでは帯が売れない実態もある。したがって、西陣織として単独で発信できるものに変えていくか、または技術やクリエイティブな環境を活かして、新たなクリエイティブゾーンとして西陣が残るような形になればと思う。

◆福間委員

クリエイティブや路地、お年寄りと商店街などのお話を聞いている中で、大事なものを持ち帰れると思う点があったので、感想を述べたいと思う。

まず、目から鱗が落ちる思いだったのが「お年寄り」についての意見である。我々が連合会や仁和学区と話をする中で「居場所づくり」を考えると、囲碁ができるようなイメージがあったが、先ほど伺った意見は発想が違って、非常に良いものを持ち帰れると思った。民謡や演歌ではなく、フォークソングやビートルズという、我々が考えていたこととは違うものだということを知ったのは収穫であり、角度を変えて考えてみるとよいと感じた。

また、タイアップしていくことは非常に大事だと思う。町家関係もそうだが、ビルとビルに挟まれたところに町家が 1 軒だけ建っていたとして、それが本当に町家の良さを引き出しているのかどうかは疑問である。やはり、ある程度の地域や区域を全体的につくらなければならないと常々思っていたし、加えて、一過性ではなく、継続していくことに意味があると思っている。北野商店街も年に 1 回夏祭りを行うが、その日はどこからこれほどの人が来たのか分から

ないほど多くの人が来られる。しかし、一杯になるのはその日だけで、翌日からまた1年間は誰も歩いていないという悲しい状況になる。その時1回だけたくさん人が来るのではなく、ずっと足を運んでいただけるようなことを継続して行っていかなければならない。

また、若者をターゲットにしたブランドは安いものから高いものまで多いが、それに対して「年寄りのブランド」というのは格好良いと思った。我々の商店街にも衣料の物販があるが、若者向けとは言えないような服が並んでいる。考え方によってはそういう衣料ももう一度見直せるだろうし、昨年も今年も同じものを仕入れるのではなく、ターゲットが違おうとしても次々に替えて目を引くことを大事にしていかなければならないと思った。

それから、西陣の話が出たが、実は私は佳卓という新日本舞踊の家元の後援会長を務めており、年に何度か京都で公演をしている。昨年度は上七軒の歌舞練場を借りて公演したが、観客の7~8割は女性で、その中の9割ほどが着物を着て来られている。そこで「舞踊が良かった」「きれいだった」という感想に混じって、「着物を着ていくところを作ってくれてありがとう」という感謝の言葉があった。新しい着物を買っていただく際も、今まで持っているものについても「着ていくところがない」とよく言われる。そういう中で、北野天満宮の梅苑のライトアップもできる限り口コミで宣伝しているが、皆さん連絡を取り合って着物で来られている。

したがって、居場所という発想を変えて、シニア世代の方も行けるところで、着物で行くと風情があるような場所と機会をつくると、すべてが結びついていくのではないかと思った。

◆赤星委員

皆様の貴重な御意見を伺いながら、この検討委員会の中でしっかりと整理をしておかなければならないと思った点がいくつかある。

まず、資料2、資料3は、我々がこれから議論をしていく方向性を示唆されていて、きれいにまとまっていると思うが、「誰に対して、どうなってほしいのか」というターゲットをもう少し絞った方がよいのではないかと思う。その1つが例えばシニア世代かもしれないが、ターゲットの中には、現在住まれている住民がどう変わっていくべきなのか、あるいは観光客であれば、日本人観光客でもどういう方々に来ていただきたいのか、そして西陣の魅力をどう当てはめていくのかという問題もあると思う。

また、外国人観光客が増えており、例えば、二条城はこの10年間で断トツの伸び率の集客を誇っている。つまり、すぐ近くまで観光客が押し寄せてきているわけだが、単純に交流人口を増やしたいというだけで二条城の客がすべてこのエリアに流入することを地元としてよしとするのか、否なのか。このように、どういうターゲットに対してどういう対応をするのか、地元の考え方や戦略を変えることでターゲットに動いていただくべきなのか等をパズルのように整理した方が議論は進むと思う。

観光客は私の専門分野だが、定住人口を増やしていく、スタートアップの企業を増やしていくという取組も重要かと思う。そういう方々に対しては具体的に取組を始めていると思うが、地元の方々の変わり方や行政のサポートによって、ターゲットが変わっていくような、もう少し相手ありきで考えた方が今後の議論が進むのではないかと思う。

観光客にも多様な種類がある。現在、京都市には過去最高の観光客が来ているが、地域によ

って観光客に求めていることが違う。例えば、家電量販店が多いエリアは購買力の高いアジア系の方に来ていただきたいし、一方で、量は追い求めたくない、地域が静かであってほしい、本当に地元の価値の分かるものだけを買っていただきたいというところは、欧米の方々に来ていただきたい。あるいは若者に来てほしいところなら、最近増えている民泊施設とコラボレーションして、地域に新しく参入してきた方々と新たなインスピレーションで新しいサービスを作る等、いろいろな取組があると思う。もちろん、地域の方々も流入される方も満足するのが理想だが、なかなか一足飛びに達成することはできないと思うので、前回も述べたように、観光や交流人口を上手くパーツとしながら、地元として優先順位をつけ、何から手をつけていくのかということを考えていければと思う。

最後に、やはりブランドは重要だと思う。地域の方々にとっても1つの大きな旗印になるが、特に外から入って来る人にとっては「この地域が何を約束してくれるのか」「自分たちにとってどういう価値を与えてくれるのか」という共通の記号であり、どういう施策をするにしても重要なことになると思う。そうしたブランドの議論をこの中で展開していければ、さらに面白くなっていくと思う。

◆冷泉委員

先ほどの福間委員の意見の続きになるが、西陣織の帯はそもそも高級品である。それだけではなく、上京で生産してきたものは皆高級品であり、御所を中心とした周りにある菓子屋も装束屋も茶道具屋もすべて高級品である。そういう自分たちが携わってきたものが、実は世界に出しても恥ずかしくない最高級品であるという自信を持って胸を張ることがまず必要である。

それを認めた上での話になるが、その西陣織をこの地域の人たちは皆所有している。しかし、着ていく機会が本当でない。そういう意味では、例えば、行政が主催する何かの授賞式でも、必ず「平服で来るように」と書かれているが、これは要らない一言だと思う。行政としては「着物を着て来い」とは書き難いと思うが、皆が自分の持っているものを着て行ける場所を提供することは重要である。

西陣織に対するイメージについては、私が子どもの頃に見た西陣織の賃機織は暗くて、貧しいイメージだったが、その人たちがあの環境の中から生み出したものは、大変に豪華なもので、文化的価値が高く高級品である。その高級品を身に纏う、高級品を持って歩く、高級品でお茶を飲むというような、高級なものを作り出した土地であるという自信と、それを使う、身につける場所、雰囲気を提供するのは非常に重要なことだと思う。

◆平岡委員

たくさん貴重な御意見を伺って、学生の身である私が何を考えればよいのかとと思っていたが、先ほど「年配の方々が楽しめるまち」という話を伺って、年配の方々が楽しんでいただける部分と、木屋町や私たち学生がよく遊んでいる河原町の界限等、それぞれが楽しめる場所があると同時に、互いが交流できる場所も並行してつくられると素敵なことではないかと感じた。

また、ものづくりをされている方々の話を学生が聞ける場所があった方がよいという御意見を伺うと、それぞれが楽しめる場所と同時に、学生や高齢の方々が交流できる場もなければ、

継承という形が今後もつながっていかないのではないかと思いますので、それぞれが楽しめる場所づくりと同時並行して、やはり交流できる場所もつくっていく必要があると感じた。

◆高田委員長

先ほど冷泉委員が言われたフォークソングは、実は同志社大学から発信していたもので、日本中の人たちがフォークソングで同志社大学に集まってきたという歴史もあった。

それから、本日、欠席の委員の方からも事務局で意見聴取をしていただいているので、今の皆さんの意見と重なる部分もあるが、事務局から紹介していただきたいと思う。

◆事務局

本日御欠席の新川委員、濱崎委員、吉田委員の3名の委員から事前にお話を伺っているので、御意見を紹介させていただく。

新川委員の御意見： 将来像について、50年後などの中長期を考えるのであれば、新しいことにチャレンジしている人が多いまち、またそれを当たり前と思い、認め合えるまちなど、動きのあるイメージがよいのではないか。

アントレプレナーシップ、起業家精神を持った人が集積して、この西陣地域の先進性を特徴づけるものになることが必要ではないか。

また、分野間の関係性については、芸術文化とものづくりをつなげることが新しいものを創造しやすいのではないか。ものづくりも西陣織だけではなく、組紐などの工芸や和菓子など多くの資源があり、新しい仕事や産業を生み出すことにもつながるかもしれない。

ビジョンに掲げる内容を、誰がどのように進めるのかについても議論をして記載していく必要があるのではないか。主体については難しいが、地域の中で思いを持った人の自主的なネットワークやつなぎ役を果たす個人、あるいは、NPOなども考えられるかもしれない。

という御意見を頂いている。

濱崎委員の御意見： 西陣を中心とした地域内での生産性を上げるにはどうすればよいのかという問いに対しては、誰もが一定の技術力を持つことができ、また、安価に生産できる時代になったため、ものに価値を与えるのは、今後は文化しかないのではないか。文化とは美意識のことであって、経験によって身につけることができる。お茶やお能を習うことで、所作振る舞いが目に見えて変わることがあるが、これは単に型を学んでいるだけではなく、型を通じて相手への思いやりや自らの立ち位置を知る技術を学んでいることだと言える。

この地域は、日本の中でも特異な文化的な地域であって、まちを歩けばいくらでも学びのネタはある。例えば、ものづくりの職人であれば、お茶を習ってみる経験がクリエイティブな発想の源泉として仕事にも役立つのではないか。この地域にはこの場所でしか味わえない、体験できないことがたくさんあるので、これらの本物の文化を、際立つような切り口で、この場所から発信できればよいと考えている。

という御意見を頂いている。

吉田委員の御意見： 地域での仕事に関して、世の中の人をつくる人と消費する人に分けるならば、西陣はつくる人のまち、クリエイターのまちだと感じている。西陣織はもとより、ま

ちづくり、子育て、職住近接の様々なクリエイティブな仕事を含め、多くの人が何かをつくる、育てることに参加されているまちである。そのようなつくる人を支援する仕組みができればよいのではないか。

西陣織の担い手である職人の仕事は、5年、10年後には、今以上に希少で重要になると考えている。一方で、後継者育成といっても、現在ではそれだけで食べていくことが難しい。それでも地域にもものづくりを残したいという思いで技術を学ぶ若い人がいるのも事実である。最初から職人として食べていけるわけではなくても、生活のために収入源を別に持つ人や子育てが一段落したクリエイターなど、ものづくりに関心のある多様な方々が西陣織の技術を学び、担い手として育つことができる仕組みが必要なのではないか。

といった御意見を頂いている。

◆高田委員長

欠席の方の御意見も紹介していただいたが、先ほどの議論に上手く重なっていると思う。

本日頂いた議論は、資料2、資料3について「この点が違うのではないか」というような話ではなく、それをより充実させる方向での御意見をいただいたと思う。特に議論として盛り上がったのは、冷泉委員からの「シニア層をターゲットにしたまちづくりができないか」という御指摘で、それについていろいろな御意見を頂いた。シニア層とジェネレーションという団塊の世代が今の時点では重なっているの、マーケットとしても大きな影響力のあるところを対象にして、新しいまちづくりの戦略を打つことは西陣にとっても重要であるし、また、西陣の資源を上手く使うという観点からも理に適った方向ではないかという御意見を含め、様々な御意見を頂いた。実は、このビジョン自体は50年後のこの地域を考えていくものであり、時間軸で見れば、団塊の世代は動いていくので、人口構成は一旦減って団塊ジュニアでまた増えるという形になっていく。したがって、今の議論は50年先の話ではなく、もう少し近いところの突破口をどのように考えるのかという議論だと思う。したがって、その先、さらにどのように展開すればよいかというのは、最終的に将来像というところで、さらに考えていただく必要が出てくるだろうと思う。

もう一つは、上林委員からも少し御指摘があったが、伊豆蔵委員から、この地域にビジネスとしてどのような新しい産業を定着させていくかということが将来像にとっても重要なので、そこへつないでいくための議論と、もう少し先にどのようなビジネスの展望を持てばよいのかという御指摘があった。これも資料2と資料3をつなぐ重要な御指摘である。前回も新たなものづくりという観点の御指摘を頂いたが、ものづくりに限らず、様々な商業活動や観光の問題も含めた新しい産業の展望をしなければならぬという御指摘だと思う。

それから、前回から共通してつながりの問題や、時間軸でものを考えていくべきだという話を頂いていて、これは本日も同じような展開だったと思う。

資料2は上手くフィールドが整理されているが、まず「暮らしと文化」と「京町家・路地・町並み等」という物的環境の問題があり、その相互の関係をどのように考えていくのかということと、一方で、経済活動について様々な意見が整理されている。ここの部分は、本日、新しいキーワードがいろいろと出てきたようにも思う。そういうことで、「暮らしと文化」と物的環

境の問題であるまちの問題と、経済活動との関係をどのように考えればよいのかというところで、前回に引き続いて今回も議論を頂いたと思う。

左下に「ブランド」と書いてあるところについては、本日の議論では「ターゲットをどのように考えていくのが重要」という御指摘を頂いたと思う。その中で特に団塊の世代あるいはシニア層というキーワードで御指摘いただいたことを含めて、この西陣の持っている特性、冷泉委員が2回目に御発言いただいた中で指摘されたことは「住民が誇りを持って継承」という部分に関わるベースとなるブランドイメージだと思うが、さらに、それをどのように現在あるいは将来にわたって展開していくのかという御意見を頂けたと思う。

そのように全体を俯瞰したマップとなっているので、これを本日の御意見を含めて再整理するという方向で、これについては良いだろうか。(異議なし)

資料3については、皆さんにこれからもっと具体的な話を提案していただかなければならない。新川委員から御意見を頂いたが、50年後の中長期イメージということで、もう少し考えなければならぬので、当面するべきことも大事だが、さらにその先をどのように考えるかという戦略を、むしろ皆さん方にいろいろなアイデアを出していただいて議論を深めていきたい。本日の時点では、新しい産業の議論や、ジェネレーションの問題も将来どのように考えていけばよいか等、問題提起としてあったと思うので、引き続き、次回以降もそのような議論をできればと思う。

まだ、これをどのようにまとめればよいかという状況ではないが、いくつかのアイデアを頂いたので、それを事務局の方でもう一度整理していただいて、さらに50年という区切りが良いのかどうかという問題もあるが、中長期に時間軸で先を見通すということ、次回以降、さらに皆さん方に考えていただきたい。これは次回以降の課題とさせていただきたい。

それでは、まだ皆さん方に議論していただきたいことがあるので、資料2と資料3については以上として、次の議題に移りたい。

(3) 今後の進め方

◆高田委員長

議題(3)「今後の進め方」について事務局から説明をお願いします。

【資料説明】— 省略 —

◆高田委員長

資料4と資料5を見ていただいて、皆さん方の御意見、あるいは、アイデアを出していただければと思う。特に、資料4に「テーマ別意見交換会」とあるので、本日の議論も踏まえながら、どのようなテーマを立ててこの議論を掘り下げていくべきかということについて、この場で決めるわけではないが、御提案を頂ければと思う。

それから、「そのテーマに関連して、こういう人から話を聞いてはどうか」というようなアイデアがあれば、そういう提案もしていただきたい。

いずれにしても、これから議論を深めるために、もう少し掘り下げて議論すべき課題につい

て御提案をいただければと思う。それ以外にもテーマ別意見交換会の持ち方や、資料5のスケジュールの問題に関しても、御意見等があれば御発言をお願いしたい。

◆上林委員

資料4の「テーマ別意見交換会」についてはテーマが5つあるが、①と②は一つとして考えて、生活空間・生活文化の継承という形でまとめて議論すればどうかと提案したい。

◆高田委員長

他にはどうか。「このようなテーマを立ててはどうか」等、今までの皆さんの御意見をベースにして、事務局で5つの案を作っていたが、もう少し掘り下げた方がよいというような御意見や、本日のシニア層の問題やターゲットの問題、それから新しいビジネスの問題というような観点からの御意見、あるいは、テーマを少し変えるか、あるいは絞り込んだ方がよい等、そういう御提案があれば出していただきたい。(その他、意見等なし)

それでは、事務局の方で、本日の議論を踏まえてもう一度検討していただきたい。あるいは、各委員の方で個別に御提案があれば、事務局へ伝えていただければと思う。

「テーマ別意見交換会」について、テーマに関する御提案はないようだが、スケジュールについてもよいか。(意見等なし)

(4) その他

◆高田委員長

最後、「その他」として、資料6の説明をしていただく。

【資料説明】— 省略 —

◆高田委員長

これについて御意見、御質問等があれば御発言いただきたい。(質問等なし)

もう少し具体的になると、いろいろな意見が出てくると思う。このような形で予算が出ていることを御理解いただいて、できるだけ有効に成果に結びつくように考えていただきたいと思う。

それでは、本日予定していた議事は以上だが、全体を通じてお伺いしておいた方がよいことがあれば、御発言いただきたい。(意見等なし)

それでは、私の進行は以上で、事務局にお返す。

◆平井部長

本日は活発な御議論をいただき、感謝申し上げたい。貴重な御意見をいただき、今後資料をまとめていく上で、どのような形にしようかとワクワクしている。

次回第3回の検討委員会は6月頃の開催を考えている。後日日程調整をさせていただくので、よろしくをお願いしたい。

また、テーマ別意見交換会は、詳細をもう少し詰めながら、また、御相談させていただきながら、立ち上げの方法について考えていきたい。その際には連絡させていただくので、御参加をお願いしたい。

貴重なお時間を頂いたことに感謝申し上げて、閉会とさせていただきます。

以 上